

2021年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生の感想



●この授業を通じて、昨年のオンライン授業で失っていた「自信」を少し取り戻せたような気がします。高校生までは、リーダー的な役割を託されることも多く、その場を取り仕切って、場を盛り上げることが普通にできていましたが、コロナ禍によって大学に通えなくなり、人の顔が見られないオンライン授業ではなかなか自分のそういった部分を見せることができず、人とのコミュニケーションにおいて自信を無くしていました。そういった自信がこの14回の授業と最後の生放送番組の成功によって取り戻せたのではないかと思います。

●一番勉強になったのは、常に聴いている人のことを考えて発信をしていかなければならないということです。（中略）自分たちの主観が入りすぎると聞いている人にとっては聞きづらい放送になってしまうので、常に客観的な視点を持って相手が聞きやすい内容にすることは大切だと感じました。また今回の授業では大学入学以後初めて学外の人と接する機会がありました。その際にわかまえるべき礼儀や気遣い、どのようにコミュニケーションをとればよいのかということ学ぶことができました。また社会問題に対する興味が強くなりました。今まで私は地域にこんなに悩みを持つ人がいて、そのような方たちを支援する多くの団体があり、多くの人たちが支え合って生活しているということを知りませんでした。授業を通して、支え合って生きることの大切さがわかったので自分も誰かを支えていけるようにもっと社会にある問題に興味を持ってかかわっていきたいと思いました。

●達成感を感じることができた点は、友達と試行錯誤して何か1つのものを作り上げることができたことだと思います。1年生の時は対面授業がなく、リモートでのグループワークがほとんどでした。その中でもZOOMで集まって議論を重ねるなど、最善を尽くしていましたが、最後までメンバーとは会うことができず、どこか心残りの部分がありました。ですが今回の授業では全14回すべての授業を対面で受けることができ、実際に友達と会って共に授業を受けることが可能になりました。黒板に自分たちが考えた案を挙げたり、紙にまとめたり、又休み時間に雑談ができたり、その雑談からいい案が出てきたり等、本当に有意義な時間だったと思います。うれしかった点・楽しかった点も（中略）、この授業ではチームでの作業がメインだったので友達ができ、一緒に作業できたことが何よりもうれしく楽しかったことだと思います。またラジオ番組制作はあまり体験することができない体験で、自分たちが作り上げた番組を形として残すことができたことも非常にうれしく感じています。



●ラジオ制作の裏側を見て実際に経験してみたいと思い、この授業を受講しましたがラジオ制作の裏側はもちろんそれ以上に多くのことを学ぶことができました。（中略）若者の支援事業を行っている方の話は今回の取材がなければお話を伺うことはなかったでしょうし、事業にかかわっている方の話により得た知識も多くあります。ラジオ制作の経験は非常に貴重なものになりましたし、それ以外の点でも自分を大きく成長させてくれたものと感じます。自分の人生の中でも非常な貴重な経験になりました。少しずつ完成していく番組や、完成した番組がみんなのもとに届いて何かしらの考えが生まれていくという今回の経験を通して、人に何かを届ける職業に将来就きたいと改めて感じました。



●番組制作を通して自分が得たと思うものは、第一に文章力です。ナレーション原稿を作成する際、当初は正しい日本語を使うことやインタビューで聞いた話を漏らさず盛り込むことばかり考えて、人に伝える文章であることが抜け落ちていました。しかし、先生や久保田さんからアドバイスをいただいて原稿を直すうちに、具体的なエピソードやわかりやすい言葉を入れて聞き手が想像しやすいようにしたり、入れないようにしていた主観を入れてみたりすると、自分でもより伝わりやすい文章になっていることがわかりました。実際の放送の感想を聞くと、ナレーションの内容や構成に関するお褒めの言葉がたくさんあり、嬉しかったです。また、班での作業やインタビューした方のお話を通して、以前より人に頼ることに抵抗がなくなりました。私はもともと人に頼ってはいけなと考えており、最初はナレーション原稿や構成をすべて一人で作っていました。しかし、同じ班のメンバーが「一人じゃ大変すぎるから一緒に考えるよ」と手伝いを申し出てくれたり、インタビューした方の「あなたを無視しない」「弱くてもいい」という言葉を聞いたりしたため、素直にメンバーの申し出に甘えることができました。結果、自分にはない視点や語彙を盛り込めたり、単純に自分の負担が減ったりして、良いことしかありませんでした。私の分担なのに他のメンバーに頼っても嫌な顔をされなくて正直すごく驚きましたが、人の温かさを信じてもいいんだと思うことができました。

